

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護と法律
担当者	山下幸司、松原哲、宮本弘典
授業の到達目標及びテーマ	<p>授業は講義形式で行い、毎回配布するレジュメを用いて授業を展開する。講義に際しては、一方的な講義ではなく、双方の質問と回答によりながら取り上げる問題についての理解を深めるようにする。</p>
授業の概要	<p>看護の現場に関わる法律(民法、刑法、労働法)問題について、どのようなところに問題が存在していて、法律や裁判所がどのように考えているかについての理解を目指す。</p>
授業計画	a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. ガイダンス/医療・看護をめぐる法の課題/医療過誤法の基礎理論(松原哲)</p> <p>b. 医療を取り巻く法の現代的課題、及び、医療過誤によって医療関係者に生じる法的責任の概要について理解できる。</p>
第2回	<p>a. 医療過誤法1: 過失論(松原哲)</p> <p>b. 医療機関・医療従事者の注意義務に関する判例法理の展開について理解できる。</p>
第3回	<p>a. 因果関係論・保護法益論(松原哲)</p> <p>b. 医療過誤訴訟において争点とされる法的因果関係の判断方法について理解できる。また、保護法益に関する新たな判例の考え方について理解できる。</p>
第4回	<p>a. 命の倫理と国家の論理(死刑囚の命)(宮本弘典)</p> <p>b. 世界の死刑制度の現状を概観したうえで、日本の死刑制度に対する厳しい批判を理解し、死刑制度を肯定する「動機」を乗り越える「論理と倫理」としての法的な「理由ないし」「根拠」を理解する。</p>
第5回	<p>a. 自己決定と刑事法1(人工妊娠中絶・生殖医療)(宮本弘典)</p> <p>b. 刑法において「生命」がどのような意義を有しているのかについて支配的な見解を理解し、そのうえで、自己決定権が違法阻却事由として機能しうるかどうかについて人工妊娠中絶や生殖医療を例として考察する。</p>
第6回	<p>a. 自己決定と刑事法2(尊厳死・臓器移植)(宮本弘典)</p> <p>b. 生命侵害に対して自己決定が一般的な違法阻却事由となりうるかどうかについて、安楽死に関する判例の考えを理解し、尊厳死や「脳死した者の身体」からの臓器移植に関して何ゆえ自己決定権が要件とされるのかを考察する。</p>
第7回	<p>a. 看護労働に携わる者のワークライフバランス(山下幸司)</p> <p>b. 看護労働に携わる者のワークライフバランスに長く携わっていくに際して障害となりやすい、子どもの出産や育児、親の介護に際して、仕事と生活の両立を図るための法制度の仕組みや考え方を理解する。</p>
第8回	<p>a. 看護労働における契約の意味と法による規制(山下幸司)</p> <p>b. 人は労働契約を結んで病院などで働き始め、働く内容や様々な条件が決められる。労働契約の持つ意味と労働基準法のような法律との関係を理解する。</p>
教科書	なし
参考書	谷口貴都・松原哲編『基礎からわかる法学・第2版』(成文堂)(第1回～第3回、第7回・第8回) 上村静編『国家の論理といのちの倫理』新教出版社 新教コイノーニア30(第4回～第6回)
準備学習	(事前学習)参考書の該当箇所、及び、事前に配布する資料を読んで講義に臨んでください。 (事後学習)授業によって配布される参照資料・レジュメなどを熟読のうえ、その要旨を口述しうる程度まで理解できれば、講義内容の理解も十分な程度に達しているものと考えてください。
成績評価方法・基準	レポート(90%) 出席中の発言(10%)

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護と経済
担当者	安川文朗、角田由佳
授業の到達目標及びテーマ	<p>看護サービスおよび看護労働が社会のなかでどのような意味、役割を持つのか、また看護サービスとはどのようなものか、といった問題意識を基盤として、看護サービスの経済学的特性、看護労働の経済的特性と評価、そして看護の成果の評価のあり方について理解し、また実際に評価分析を行うことができる。</p> <p>なお、授業は、講義形式および演習形式をミックスして行う。テキストと配布資料をベースに、毎回基本事項の解説と、応用課題に関する検討、討議を繰り返し実施する。</p>
授業の概要	<p>看護サービスは、患者の療養上の困難を除去し、再び充実した社会生活を送れるように支援する対人サービスである。しかしその特徴は、医師のように個別の治療技術に依拠したものではなく、非定型的でチーム単位での行為をベースにしたものである。こうした看護の「サービス」としての特性の違いは、看護サービスの評価や看護労働の評価にどのような反映をしているであろうか。また、看護師と医師や他職種との連携というとき、それは技術的、組織的にどのような関係性をもつものであろうか。そして、看護の成果はどのようにして評価されるべきだろうか。このような、看護実践と深くかかわる諸問題を、経済学理論と分析手法を応用して明らかにする。</p>
授業計画	a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. 経済学の基本的考え方と医療経済学の対象(安川文朗)</p> <p>b. 経済学が基本的にどのような学問か、また医療に関する経済学的検討のこれまでの展開について理解できる。</p>
第2回	<p>a. 選好、需要、市場～経済学的検討の基本ツール①～(安川文朗)</p> <p>b. 看護を経済学的に検討するうえで必須と思われる経済学的事項の定義や考え方について理解できる。</p>
第3回	<p>a. 効率性と資源配分～経済学的検討の基本ツール②～(安川文朗)</p> <p>b. 効率性の概念、資源配分ルールなど、看護管理を实践するうえで問題となる経済学的概念について理解できる。</p>
第4回	<p>a. 看護サービスの特徴と経済学的評価(安川文朗)</p> <p>b. 看護サービスの財としての経済特性、および看護の提供や他職種との連携の経済学的意義について理解できる。</p>
第5回	<p>a. 看護労働の経済評価①看護労働市場の特徴(角田由佳)</p> <p>b. 看護労働市場の現状と看護労働需給の経済学的特性について理解できる。</p>
第6回	<p>a. 看護労働の経済評価②看護労働の評価(角田由佳)</p> <p>b. 看護労働の評価としての賃金体系とその意味について理解できる。</p>
第7回	<p>a. 看護のアウトカム評価の理論と実際(安川文朗)</p> <p>b. 看護の成果をどのように定義し、どう評価すべきか、その基本的考え方と技法について理解できる。</p>
第8回	<p>a. 看護の経済分析における新しい視点(安川文朗)</p> <p>b. 行動経済学、経済心理学、組織と経済など、今後の看護の経済的分析に有益な近接分野の研究知見について理解できる。</p>
教科書	角田由佳: 看護師の働き方を経済学から読み解く、医学書院
参考書	必要時、授業にて提示する。
準備学習	(事前学習) 指定したテキストおよび資料の該当箇所を熟読すること。 (事後学習) 応用課題について再度自分自身で検討すること。
成績評価方法・基準	応用課題に対する講義中のプレゼンテーション内容(20%)、応用課題に関するレポート(20%)、講義の最終課題レポート(60%) を総合的に評価

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	看護と環境
担当者	大塚雅之、古賀紀江、遠藤智行、中津秀之、粕谷淳司、山口温
授業の到達目標及びテーマ	<p>本講義では、建築計画・デザイン、環境・設備、地域・まちづくりなどの専門分野から、広く建築・環境学の課題を提起し、看護や医療との関連性や解決の方法について学習する。</p> <p>授業はオムニバスの講義形式で行う。毎回到講義内容に対し議論し、各回の講義で課題となる様々な建築・環境の課題とそれに対する解決方法、考えをレポートとして作成する。毎回、担当教員から資料等は配布する。</p>
授業の概要	<p>看護学的な視点から家庭、住宅、地域を取り巻く、様々な建築・環境を包括的に学び、快適な居住、健康維持・増進、高齢者介護、地域コミュニティの形成などの諸問題の解決に役立つ基礎知識を習得することを目的とする。</p>
授業計画	a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. 看護・医療分野における建築・環境学的視点・知識の必要性(大塚雅之)</p> <p>b. 看護・医療分野における建築・環境学の知識の必要性について理解できる。</p>
第2回	<p>a. 快適な住環境のデザイン(粕谷淳司)</p> <p>b. 温熱環境、バリアフリー、生活スタイル変化への対応等と、住居デザインの関係について理解できる。</p>
第3回	<p>a. 生活空間での環境行動支援(古賀紀江)</p> <p>b. 生活する人の主体的な行動に結び付く環境のデザインについて理解できる。</p>
第4回	<p>a. 建物の空気・熱環境と空気調和設備(遠藤智行)</p> <p>b. 室内空気の清浄度や熱環境とそれらを司る空気調和設備の留意点について理解できる。</p>
第5回	<p>a. 建物の水まわりの環境と衛生管理(大塚雅之)</p> <p>b. 水まわり空間の快適性・衛生性を保持するための環境と給排水衛生建築設備の留意点について理解できる。</p>
第6回	<p>a. 建物の光環境と照明設備(山口温)</p> <p>b. 自然光と人工光による室内の光環境、光色と温冷感の関係、快適性や健康への影響について理解できる。</p>
第7回	<p>a. 地域コミュニティとまちづくり(中津秀之)</p> <p>b. 地域特有の問題点を把握した上で、コミュニティをどのように形成し育てるべきかについて理解できる。</p>
第8回	<p>a. 総括: 看護と環境デザイン(古賀紀江)</p> <p>b. 暮らす人の健康と生活の質の維持向上に資するデザインが大切であることについて理解できる。</p>

教科書	各回の授業時に参考資料等を配布する。
参考書	フローレンス・ナイチンゲール, 看護覚え書(改訂第7版), 現代社
準備学習	<p>(授業前) 提示された建築・環境に関連したテーマについて、看護・医療との関連性を考えておくこと。</p> <p>(授業後) 受講したテーマについて、参考文献なども読み、内容や意見を整理すること。</p>
成績評価方法・基準	各回の提出レポート80%、授業での討論・意見交換20%